【週刊タバコの正体】

Vol.36 第4話～第7話　2017/02

和歌山工業高校　奥田恭久

■Vol.36

(No.496)　第4話　　COPDの危険性

－COPDが進行すると肺が伸び縮みしない...

長年タバコを吸い続けた喫煙者の肺は、その有害な煙のために慢性まんせい閉塞性へいそくせい肺はい疾患しっかん（ＣＯＰＤ）という病気にかかりやすくなります。この病気の初期は、せきやたんが増えて運動したときに息切れするなどの症状ですが、進行すると呼吸困難や日常生活が困難な状態にまでなります。

正常で健康な肺は、右の写真のように呼吸をするたびに縮んだり膨らんだりするので、息を吐いたり吸う事ができます。ところが、ＣＯＰＤが進行した肺では、下の写真のように、息を吐こうとしても吸おうとしても肺の大きさが変わらなくなってしまい、十分な酸素を取り込めなくなるのです。

(No.497)　第5話　手術前の禁煙

－手術に際してタバコの影響が大きい...

喫煙は、さまざまな病気の原因となることを繰り返し紹介してきましたね。たとえば、慢性まんせい閉塞性へいそくせい肺はい疾患しっかん（ＣＯＰＤ）、狭心症、心筋梗塞、脳卒中、動脈硬化などについて覚えてくれているでしょうか。どの病気もタバコを吸ったからといって、すぐに発症するわけではありません。だからこそ、喫煙者はその危険性を自覚するのが難しく、毎日毎日吸い続けてしまいます。すると、長年の喫煙で発病し手術が必要な事態になる事も考えられます。

(No.498)　第6話　味を感じるしくみ

－タバコを吸い続けると味覚にも悪影響を与える...

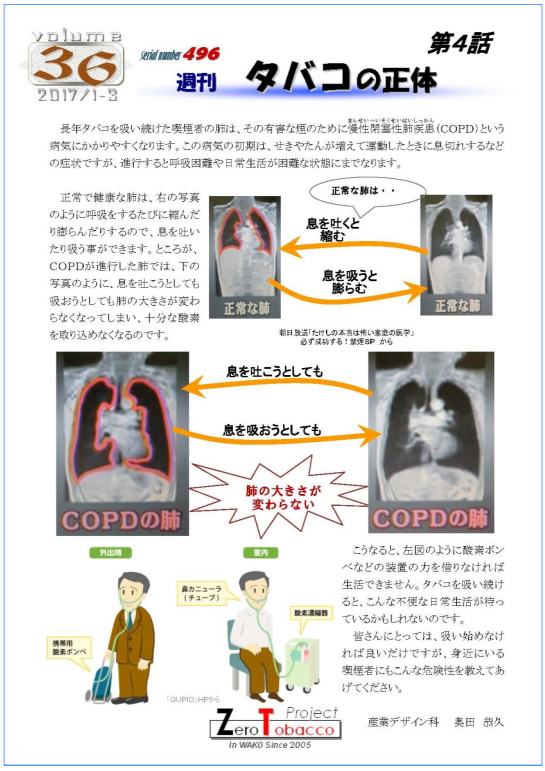
タバコの煙には２００種類以上の有害物質と６０種類以上の発ガン物質が含まれています。だから喫煙を続けると身体の様々なところがダメージを受ける事を繰り返し伝えてきましたね。そして、それは様々な病気の原因となる事を知ってもらいましたが、病気にはならなくても日常生活の質に影響するケースもある事を知っているでしょうか。

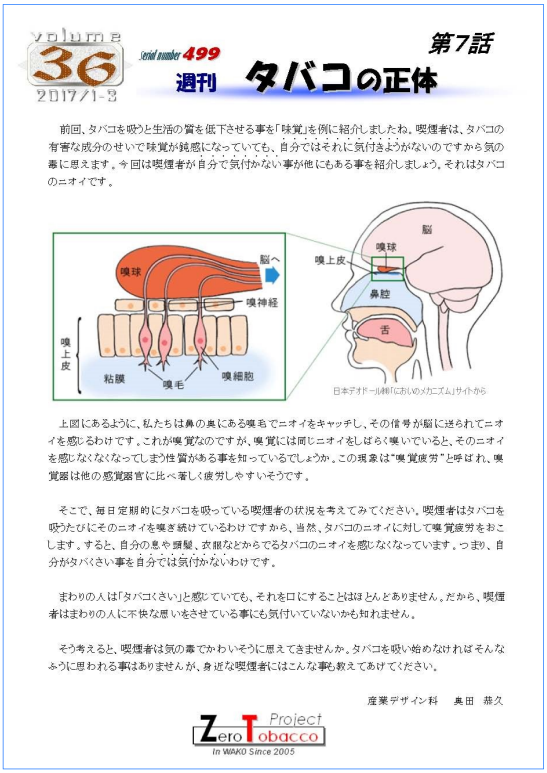
(No.499)　第7話　嗅覚疲労

－嗅覚は疲労をおこしやすい器官...

前回、タバコを吸うと生活の質を低下させる事を「味覚」を例に紹介しましたね。喫煙者は、タバコの有害な成分のせいで味覚が鈍感になっていても、自分ではそれに気付きようがないのですから気の毒に思えます。今回は喫煙者が自分で気付かない事が他にもある事を紹介しましょう。それはタバコのニオイです。

上図にあるように、私たちは鼻の奥にある嗅毛でニオイをキャッチし、その信号が脳に送られてニオイを感じるわけです。これが嗅覚なのですが、嗅覚には同じニオイをしばらく嗅いでいると、そのニオイを感じなくなってしまう性質がある事を知っているでしょうか。この現象は“嗅覚疲労”と呼ばれ、嗅覚器は他の感覚器官に比べ著しく疲労しやすいそうです。





毎週火曜日発行

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のＨＰでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※ＨＰへのアクセスには右のＱＲコードが利用できます。